

拠出金名：メコン河委員会拠出金

分担金・義務的拠出金の有無		有(所管官庁)		無	
当該機関等に対する分担金を含めた平成20年度の拠出総額				34,197千円	
国際機関等名	メコン河委員会 (英文名称・略称) Mekong River Commission (MRC)				
種別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他	
所管官庁担当局課名	農林水産省大臣官房国際部国際協力課				
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単位	邦貨 (千円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成20年度	34,197	303		1米ドル = 113円	100
平成19年度	37,918	327		1米ドル = 116円	100
平成18年度	37,918	342		1米ドル = 111円	100
当該拠出金の目的・用途等	農業水利分野のプロジェクト実施、専門家派遣費用				
拠出上位5ヶ国・地域・機関等 (2008年のもの)				国際機関等の財政(注) (2008年度決算)	
	国名	金額 (千ドル)	拠出率(注) (%)	当該年度の収入 16,662,262米ドル	
1位	日本	303	57.8	当該年度の支出 16,393,276米ドル	
2位	ドイツ	221	42.2	次年度への繰越 16,069,643米ドル	
3位				会計検査機関名	
4位				KPMG Lao Co., Ltd	
5位					
当該機関等に対する我が国としての評価 (当該機関等の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)					
<ul style="list-style-type: none"> ・メコン河流域の開発と管理に関する常設の事務局を持つ唯一の国際機関として、関係国・地域及び関係機関相互の調整、協調の場としての役割は大きい。 ・地域の持続的開発の基盤となる環境及び水資源管理を扱う機関として果たす役割が大きく、メコン地域における環境や資源の保全、基礎食料の確保を通じた貧困の解消、また政治的な安定に大きく寄与している。 ・流域国(加盟国)による会合や、流域国とドナーの対話の場であるドナー協議会、非公式ドナー協議会を定期的を実施しており、我が国を含む各ドナーの意見を各プログラム計画に反映させてきており、地域開発におけるプロジェクト実施・調整機能の向上に向けた努力は評価できる。 					
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価					
<ul style="list-style-type: none"> ・2006年末に外部識者によって、メコン河委員会(MRC)の組織・財政・機能等に関するレビューが実施され、提言がまとめられた。これをふまえ、2012年までのアクションプランが作成され、その実現に向けて取り組んでいるところ。 ・加えて、気候変動等の新たな問題に対する取組も含め、2011年から2015年の次期戦略計画を取りまとめており、また、2010年4月には幅広い連携のもとMRCサミットが予定されているなど、組織の機能強化に向けた努力は評価できる。 					
邦人職員数	1人	当該機関全体の職員数	約155名		
うち幹部以上	0人	及び邦人職員が占める率	0.6%		
邦人職員が占めている幹部ポスト					
	ポストの名称	職員氏名	備考		
	なし				
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画					
我が国もメコン地域の開発に対する支援を表明しているところ、灌漑を含む水資源全般の利用調整と開発計画策定に携わるメコン河委員会のAIFP分野に対し、拠出及び専門家の派遣を通じた支援を引き続き行っていく予定。					

(注) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年となっている。